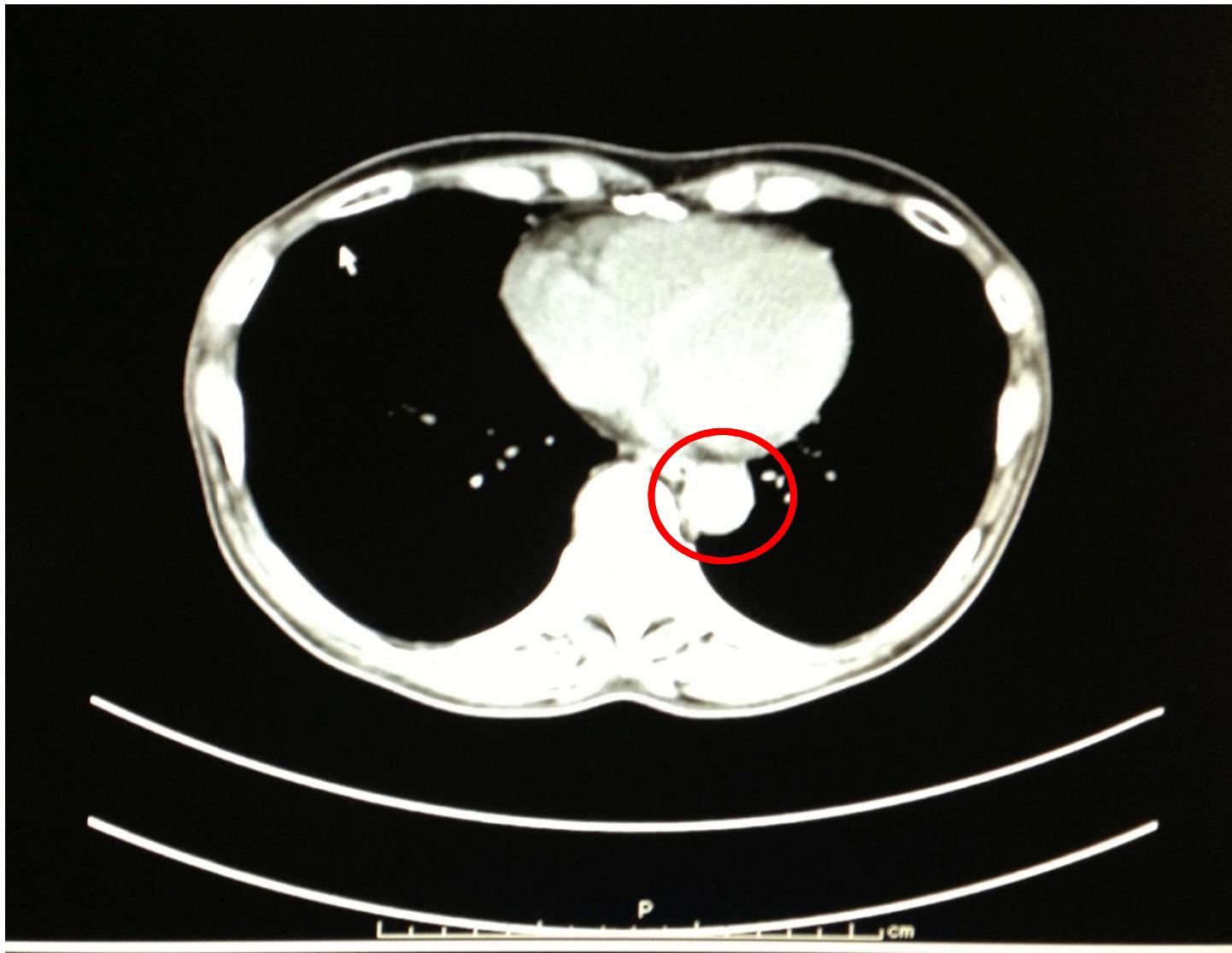


# 症例3 内分泌

---

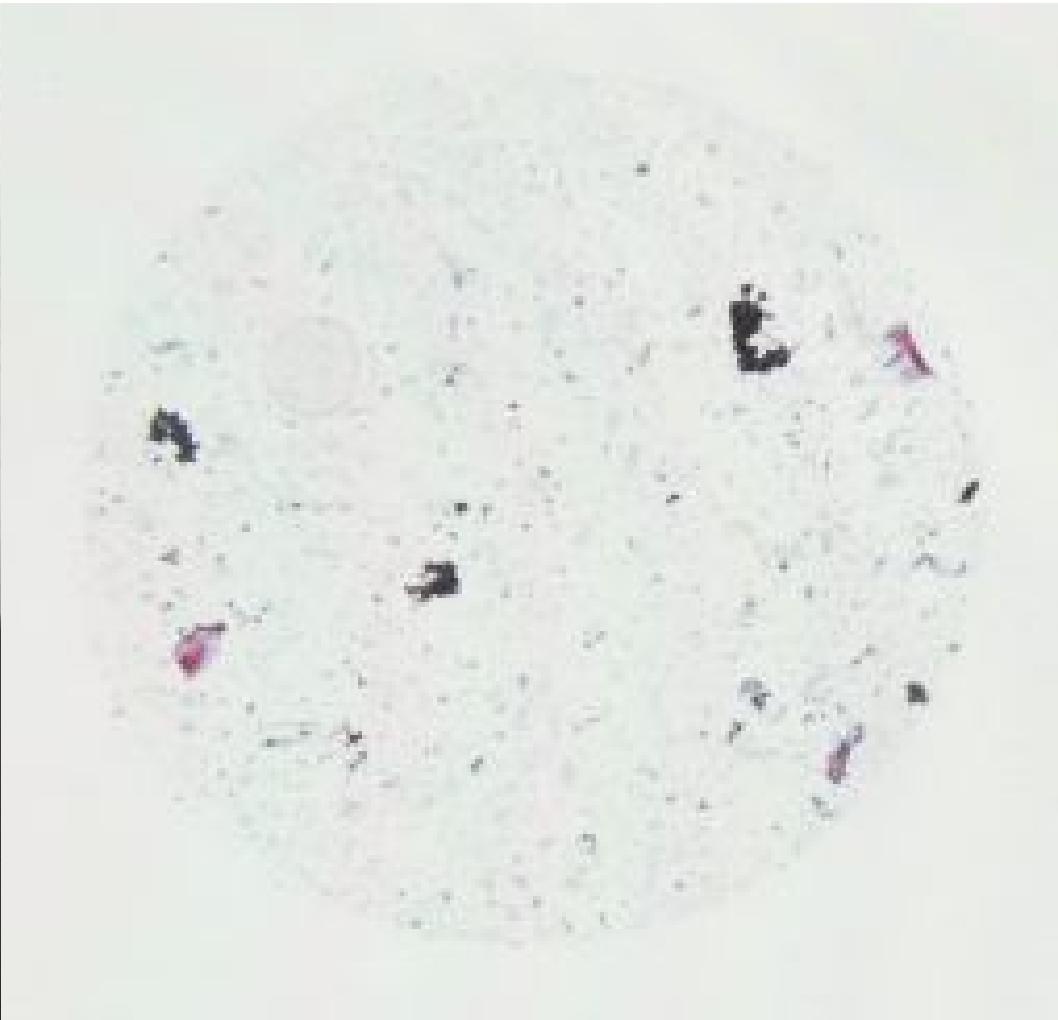
- ・60歳代、女性。
- ・左副腎腫瘍を指摘。
- ・既往歴：肺癌(詳細不明)。
- ・腫瘍マーカー：NSE上昇(18.1ng/ml)  
CEA上昇(10.0ng/ml)
- ・超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)
- ・標本：BDシュアパスLBC(**direct-to-vial**)1枚

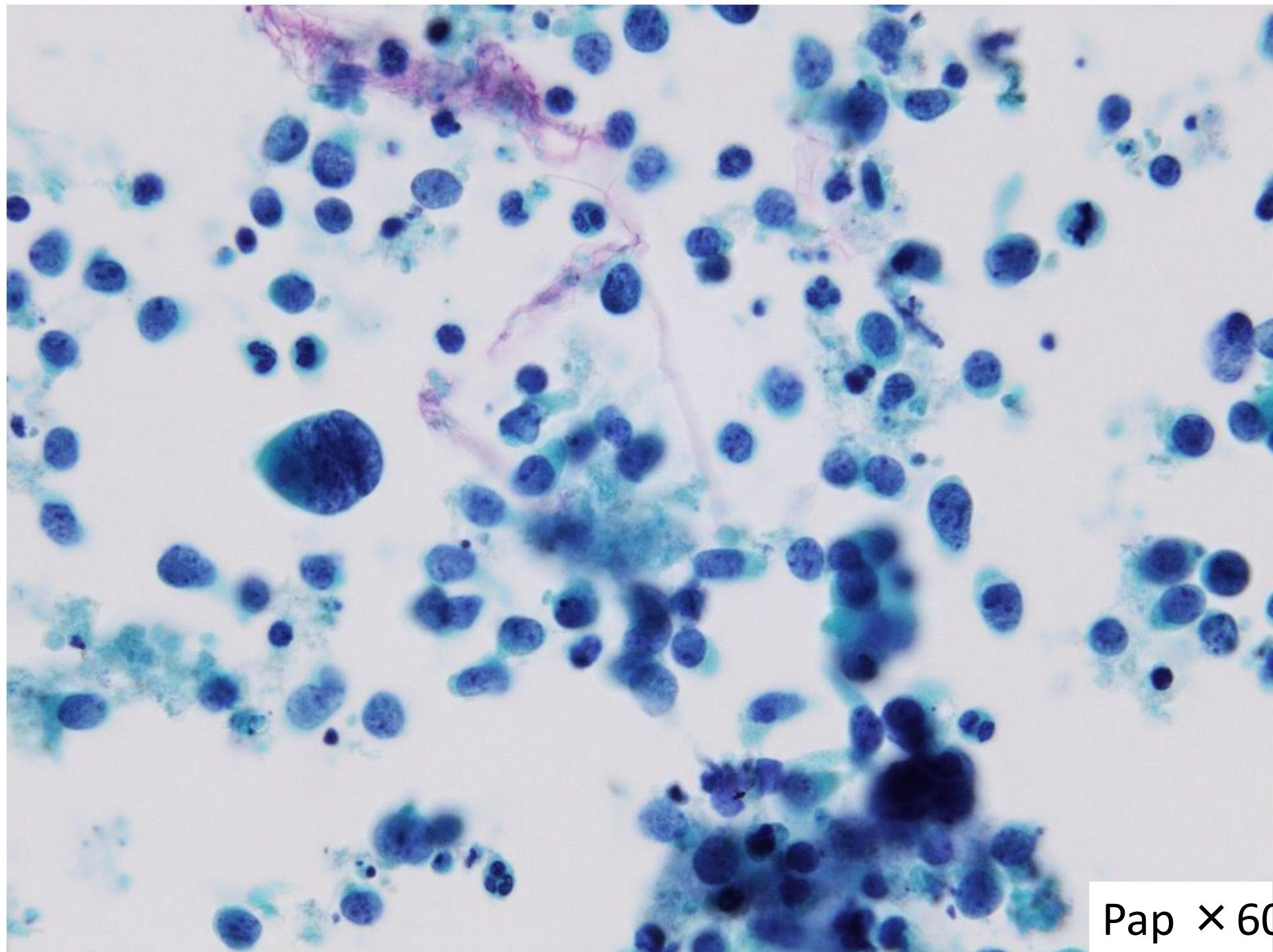
# 腹部CT



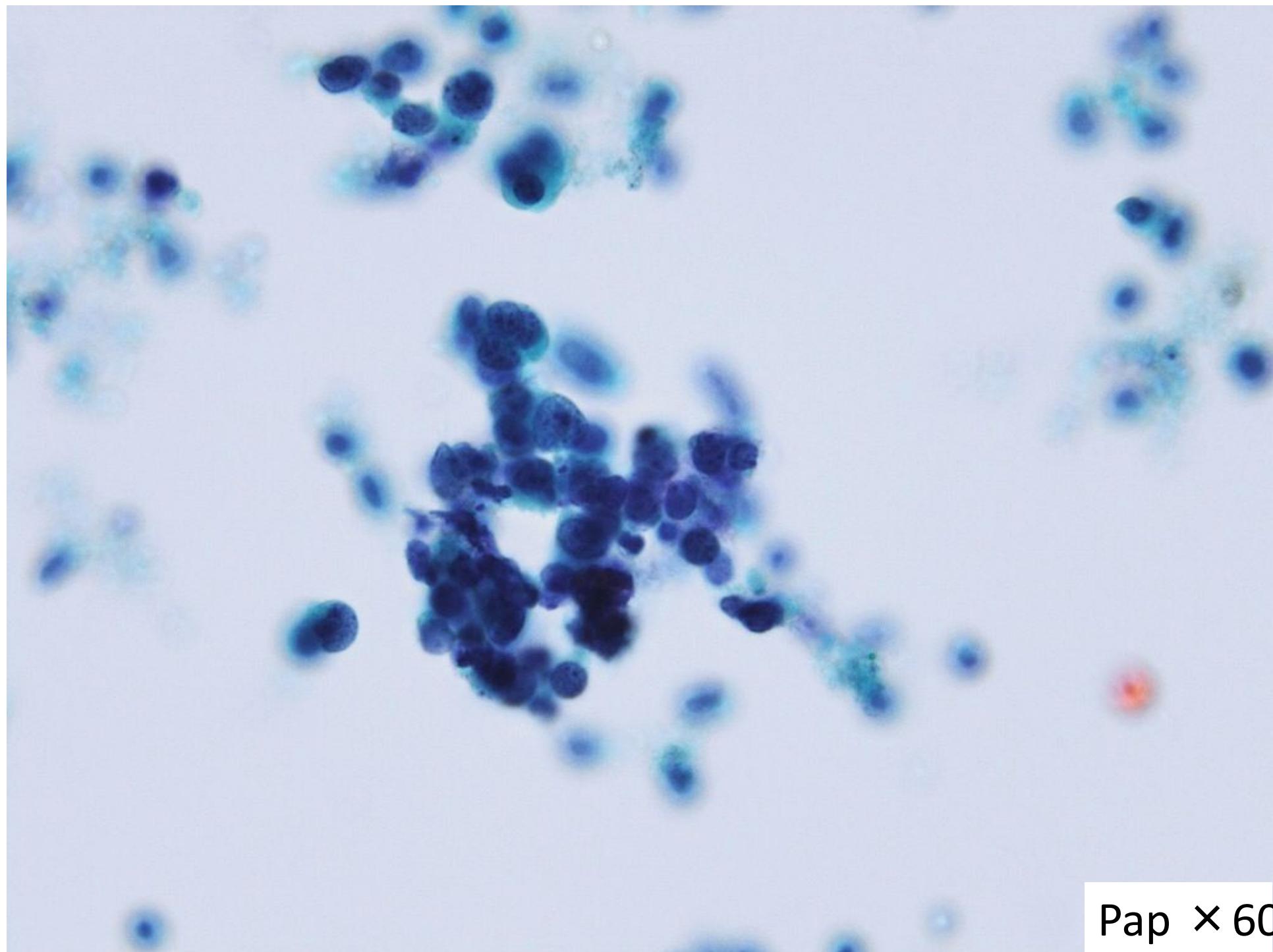
左副腎に2cm大の充実性腫瘤

# 副腎腫瘍EUS-FNA

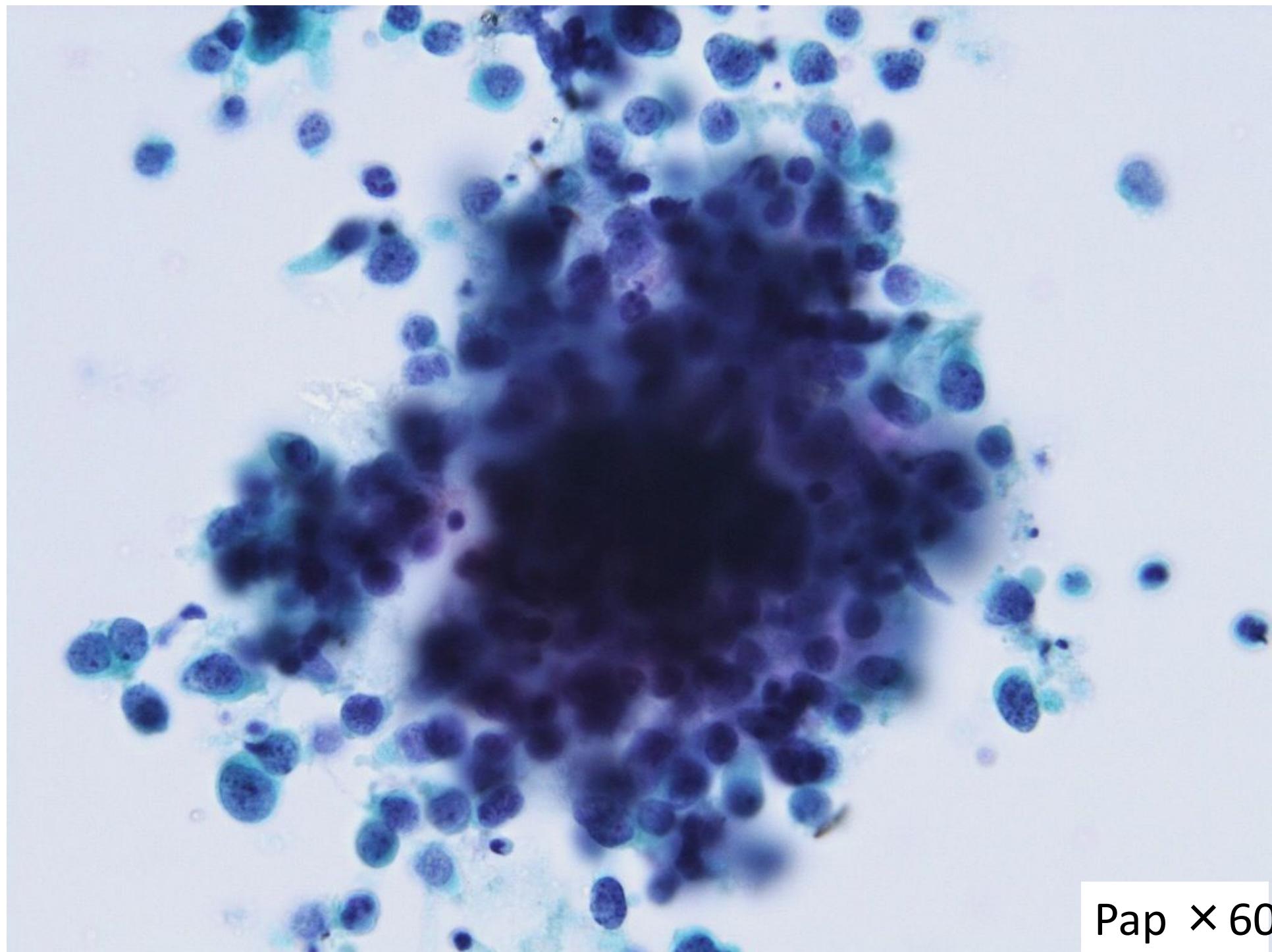




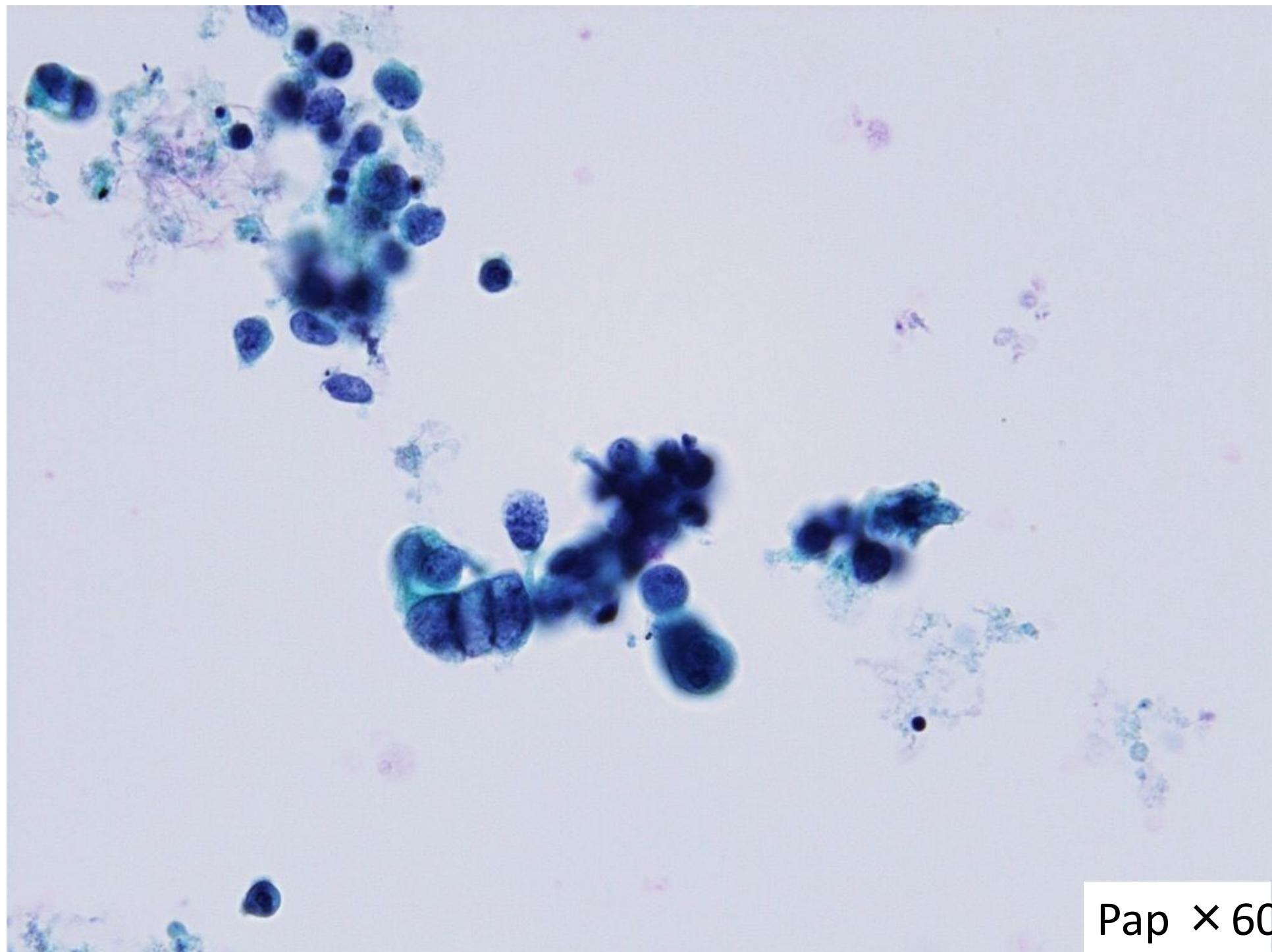
Pap  $\times 60$



Pap  $\times 60$



Pap × 60



Pap  $\times 60$

# 選択肢

---

- ①褐色細胞腫
- ②悪性リンパ腫
- ③明細胞腺癌
- ④神経内分泌癌
- ⑤高分化型腺癌



# 解說

# 最も適切な診断は？

---

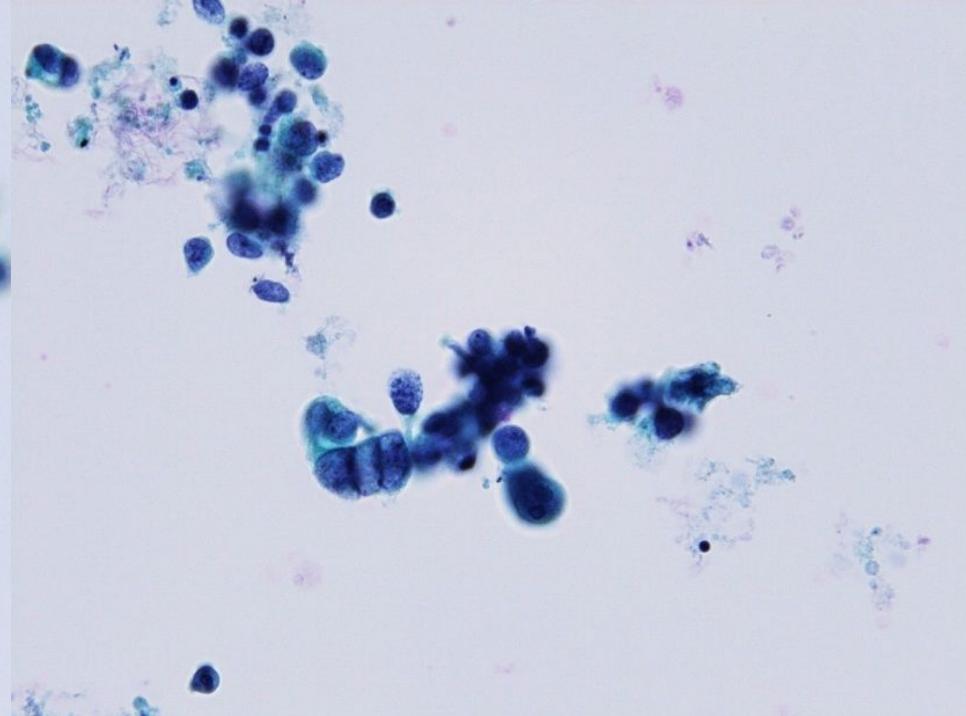
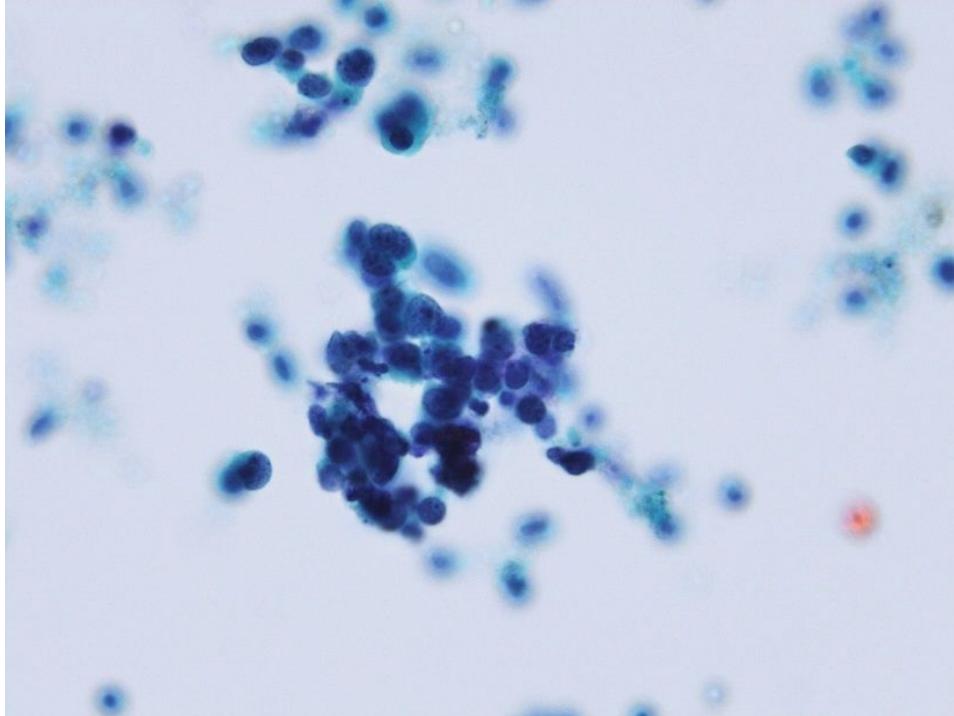
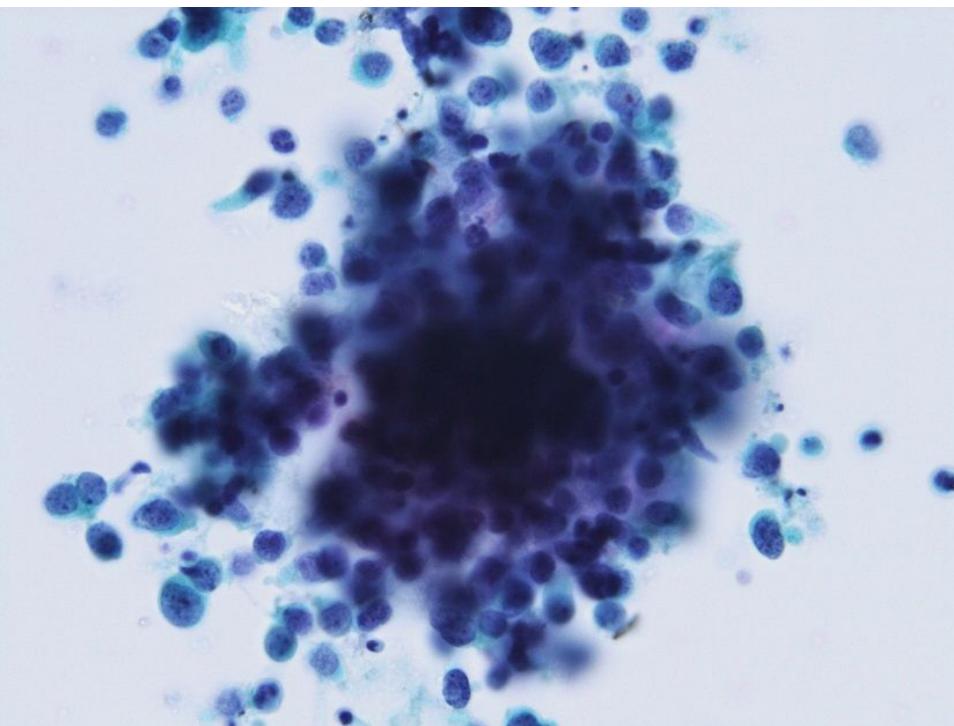
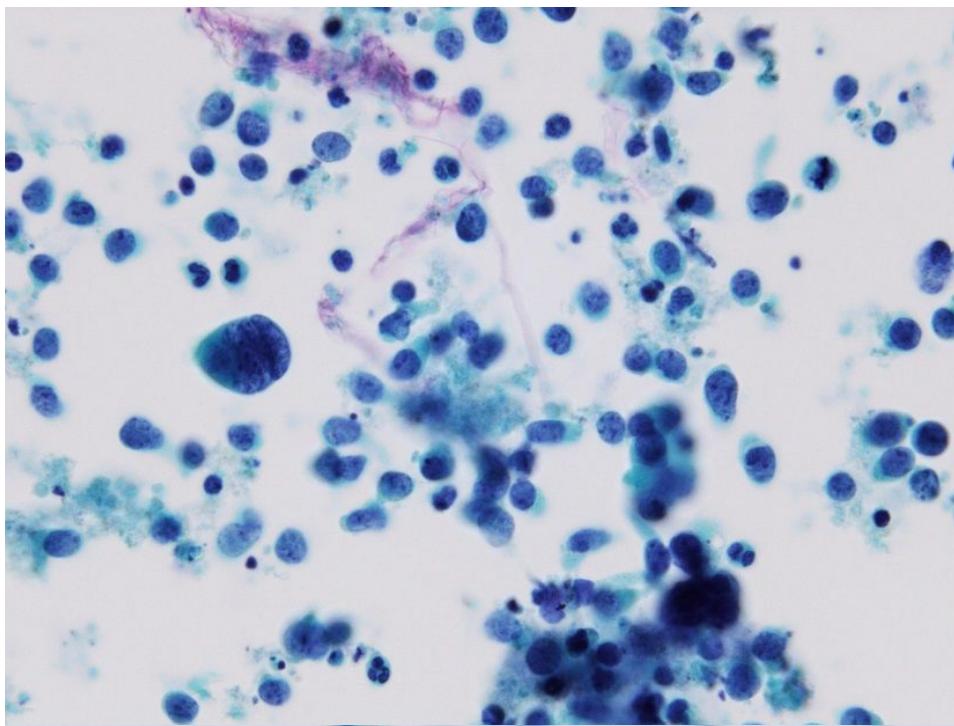
①褐色細胞腫

②悪性リンパ腫

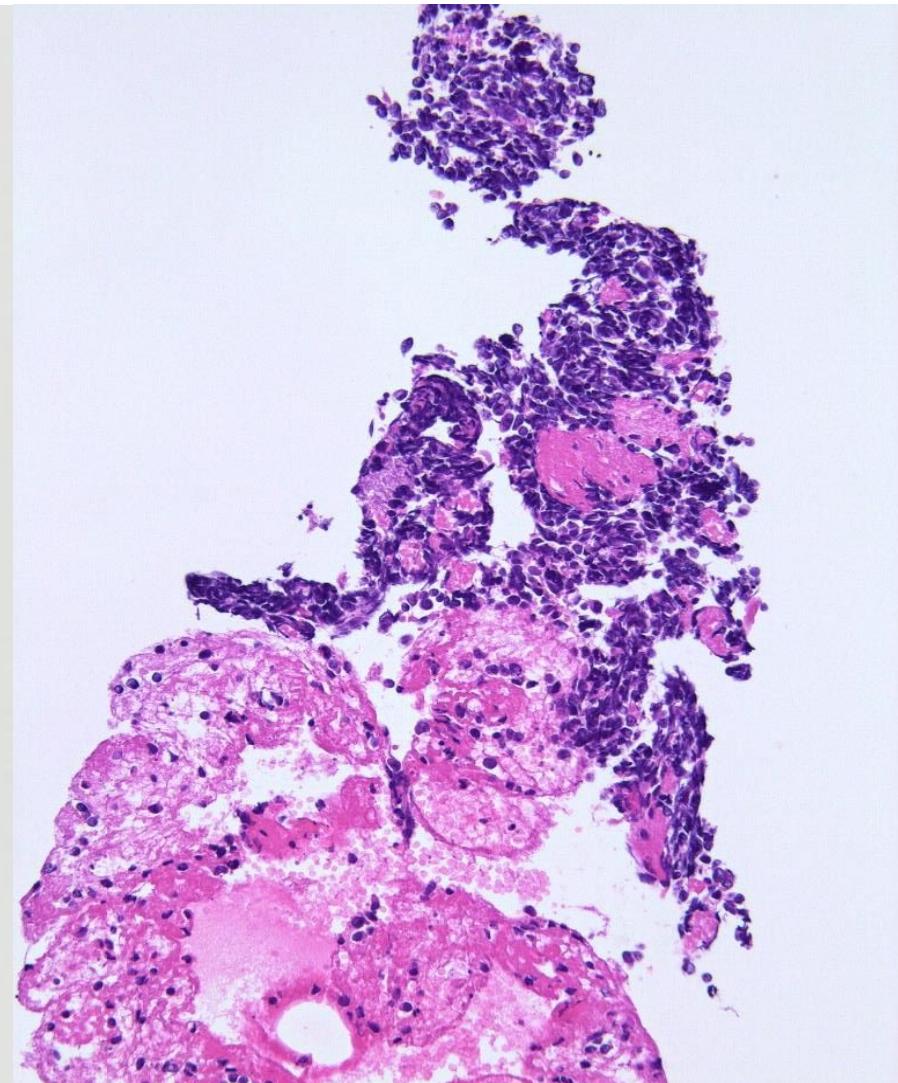
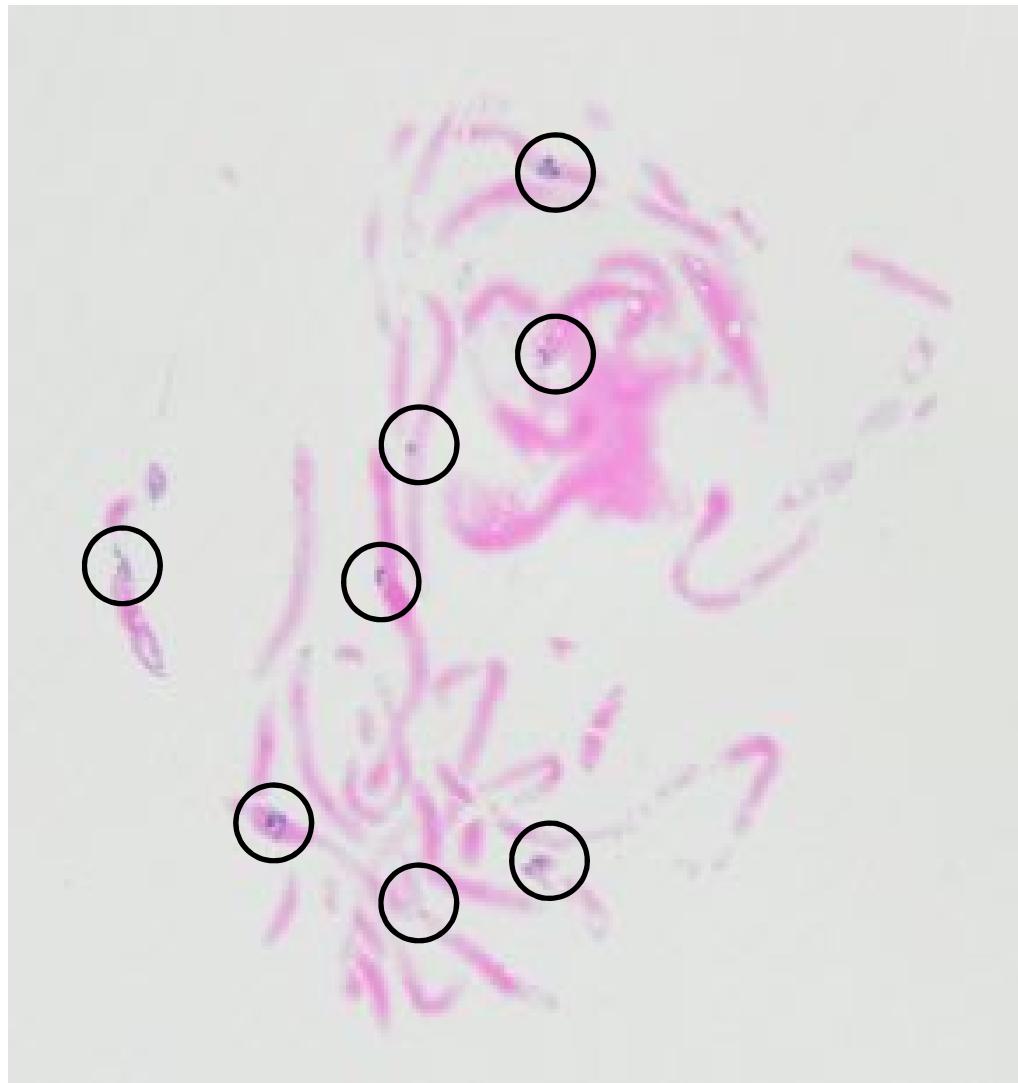
③明細胞腺癌

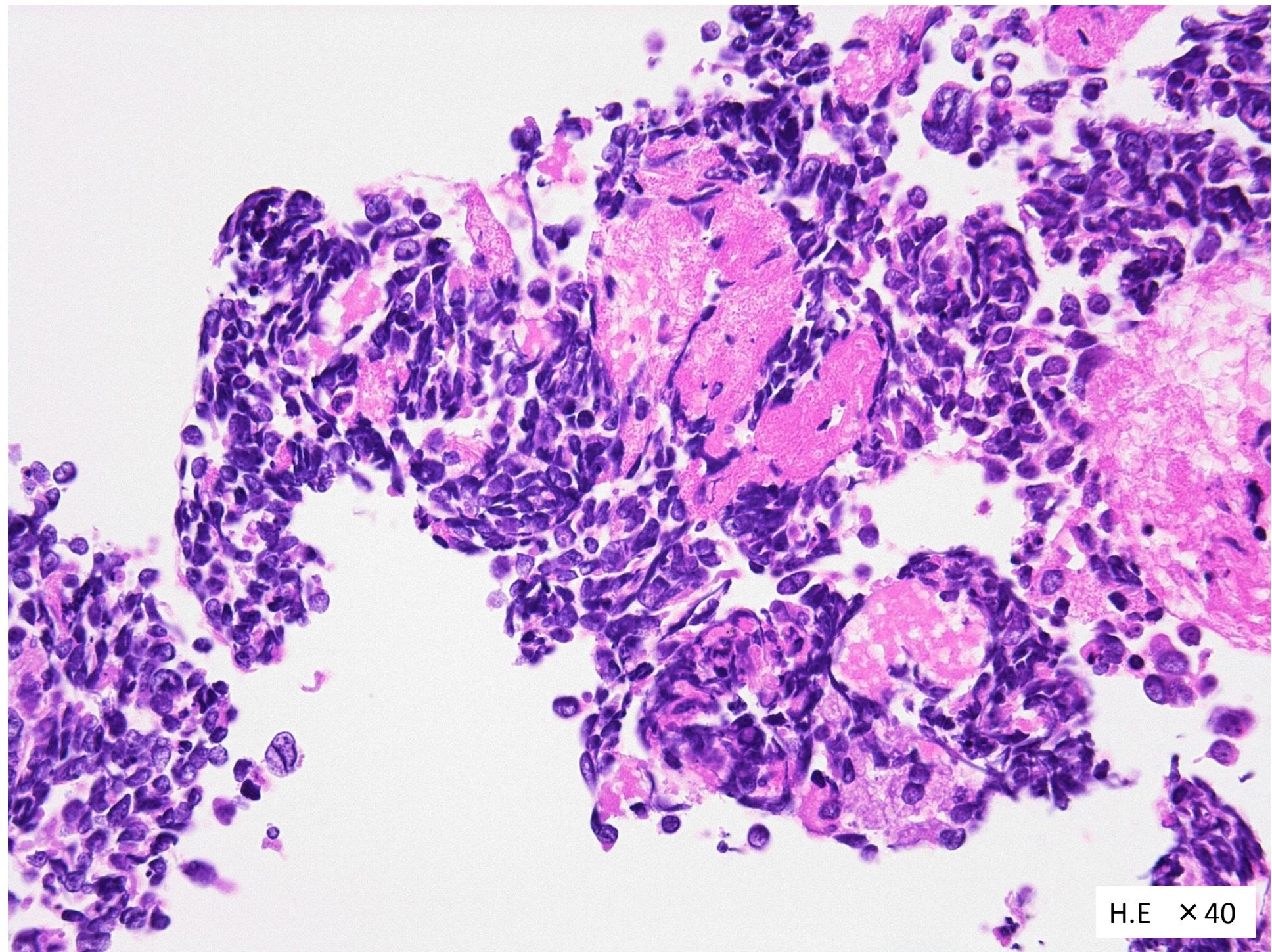
④神経内分泌癌

⑤高分化型腺癌

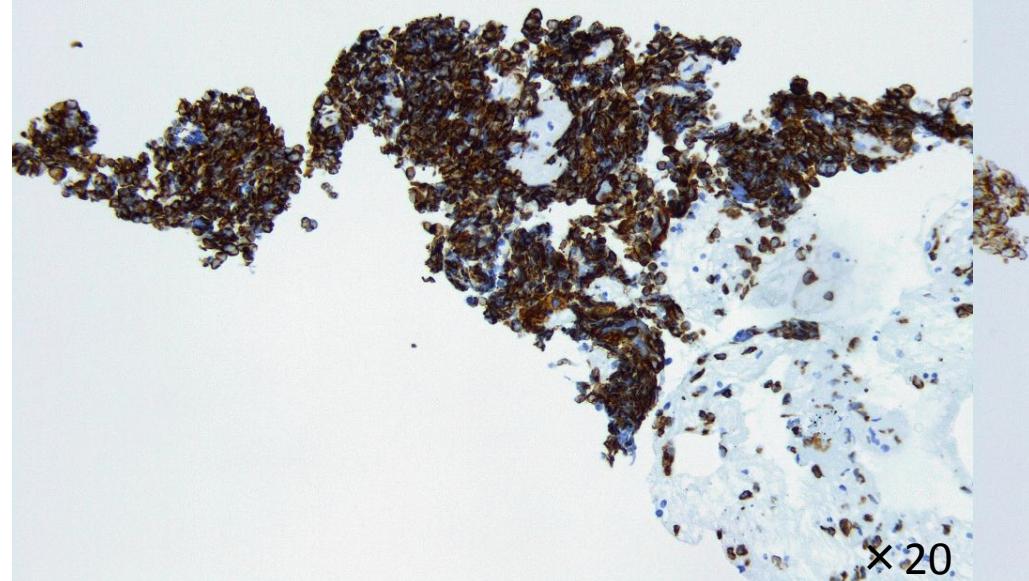


# セルブロック

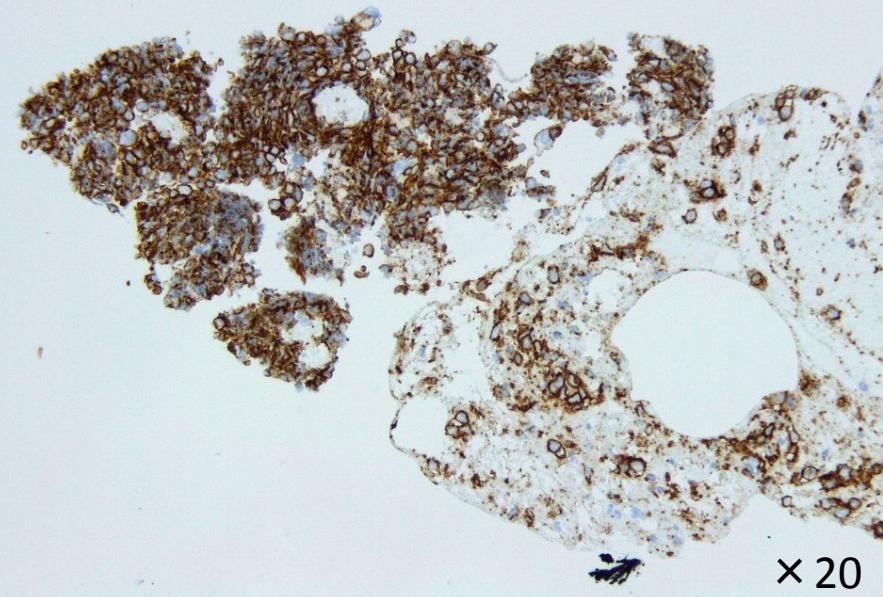




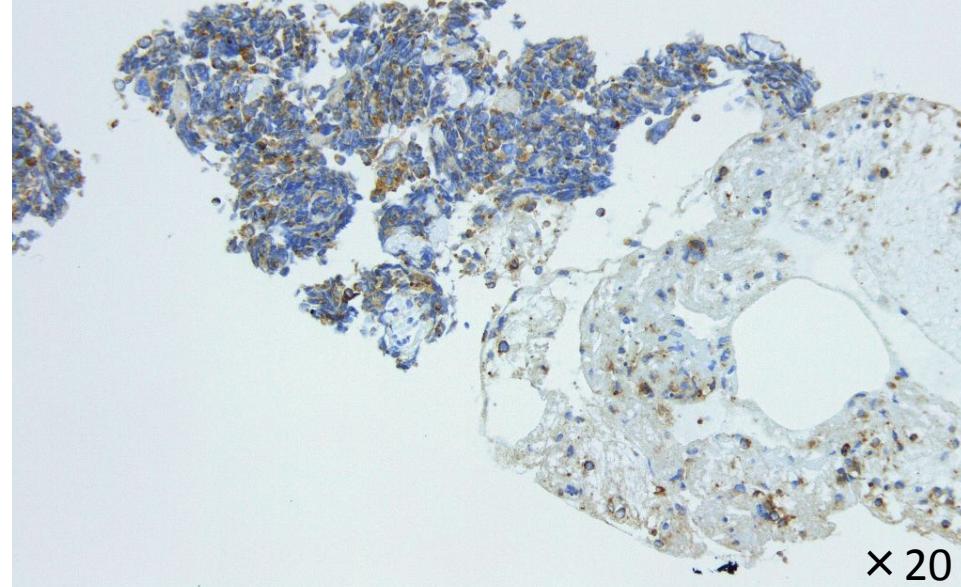
CAM5.2(+)



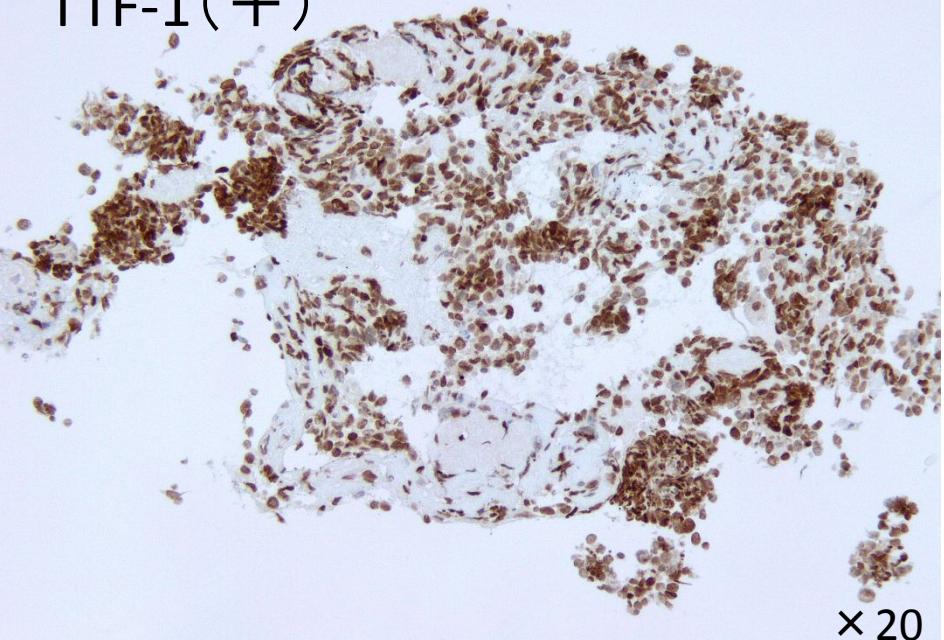
CD56(+)



Synaptophysin(+)



TTF-1(+)



# 組織診斷

---

Metastatic small cell carcinoma  
of adrenal gland  
(primary lung cancer)

# 副腎

副腎は非常に血管血流が豊富であり、悪性腫瘍の転移先となりやすく<sup>1)</sup>、肝臓(45.7%)について副腎(41.5%)が多いとされている<sup>2)</sup>。

原発性肺癌において腹部臓器転移率は副腎(25.6%)、肝臓(20.5%)、腎臓(10.3%)の順に多く、組織型では扁平上皮癌に比べて腺癌における副腎、肝臓転移率が高い<sup>2)</sup>とされている。

1)石戸谷滋人ほか. 転移性副腎腫瘍の病態と手術. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2013;30(1):45-49.

2)石垣武男ほか. 肺癌の腹部臓器転移のCT診断—特に副腎転移について—. 肺癌 1984;24(3):229-237.

# まとめ

---

超音波内視鏡の発達で、これまで困難であった胸腹腔内腫瘍のFNAが、安全に実施できるようになつた。EUS-FNA(上・下部内視鏡、気管支鏡)では、ターゲットとなる多岐に渡る部位に対して、正確な細胞採取が可能である。我々、病理の診断スキルアップやトレーニング、標本作製法の改良が必要で、今後、更に発展する領域である。